

都道府県名

石川県

学校の概要（平成15年4月現在）

珠洲市立緑丘中学校						
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	4	2	11	21
生徒数	79	87	130	3	299	

研究の概要

1．研究の主題

生きる力を育み自ら学ぶ心豊かな生徒の育成
 ————— 確かな学力向上のための方策をさぐる —————

2．研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 2・3年生 数学 （つまずきが現れやすい教科であり、理解に差が出やすいため）
- ・ 2・3年生 英語 （新入生当時の興味関心が薄れ、習熟に差が出やすい教科であるため）
- ・ 全学年 選択教科 （新指導要領で時間数が拡大し、教材開発の必要性や導入の改善が必要なため）
- ・ 全学年 各教科 （学力向上のための基礎として、家庭生活や学習の躰など根本から見直し、教職員が一体となって取り組むため）

(2) 年次ごとの計画

テーマ

生きる力を育み自ら学ぶ心豊かな生徒の育成

仮説

————— 確かな学力向上のための方策をさぐる —————

- 1 共通の学習の構えを作ることにより基礎的・基本的な知識の定着に効果がある。
- 2 学び方を学ぶことが主体的な学習と生き方につながる。
- 3 評価の工夫と指導法の改善が学力を向上させる。

研究内容・方法

- ・ 3年間の研究の初年度として、生徒の生活や学習の実態を把握して学校・地域が一体となって取り組むことをめざし、仮説1に焦点を絞って研究を進めた。実態を把握するために生活調査アンケートなどを実施した。
- ・ 英語科と数学科では研究授業を行い、習熟度別少人数授業について全教職員の共通理解を図った。習熟度別少人数授業導入初年度ということもあり、主にクラス編成の方法について研究した。英語の基本クラスでは、導入に自作ビデオを使うなど教材の開発にも取り組んだ。

平成14年度

テーマ

生きる力を育み自ら学ぶ心豊かな生徒の育成

—— 確かな学力向上のための方策をさぐる ——

仮説

- 1 共通の学習の構えを作ることにより基礎的・基本的な知識の定着に効果がある。
- 2 学び方を学ぶことが主体的な学習と生き方につながる。
- 3 評価の工夫と指導法の改善が学力を向上させる。

研究内容・方法

- ・ 14年度の研究をさらに進めるとともに、仮説2・3について研究を進めた。
- ・ 各教科においては、少人数授業形態の効果的取り組みの研究と学び方を学ぶ学習過程を実践研究した。
- ・ 数学・英語を始めとして各教科で教材の開発や評価を生かした授業の研究を行った。
- ・ 11月には、中能登管内の教員を対象に公開授業を行い、授業研究を深めた。
- ・ アンケートや学力調査などをもとに、生徒や教育環境についての実態把握を行い、授業だけではなく保護者や校区のフロンティア推進校である飯田小学校・飯田高等学校に情報を発信して、連携を図った。

テーマ

生きる力を育み自ら学ぶ心豊かな生徒の育成

—— 確かな学力向上のための方策をさぐる ——

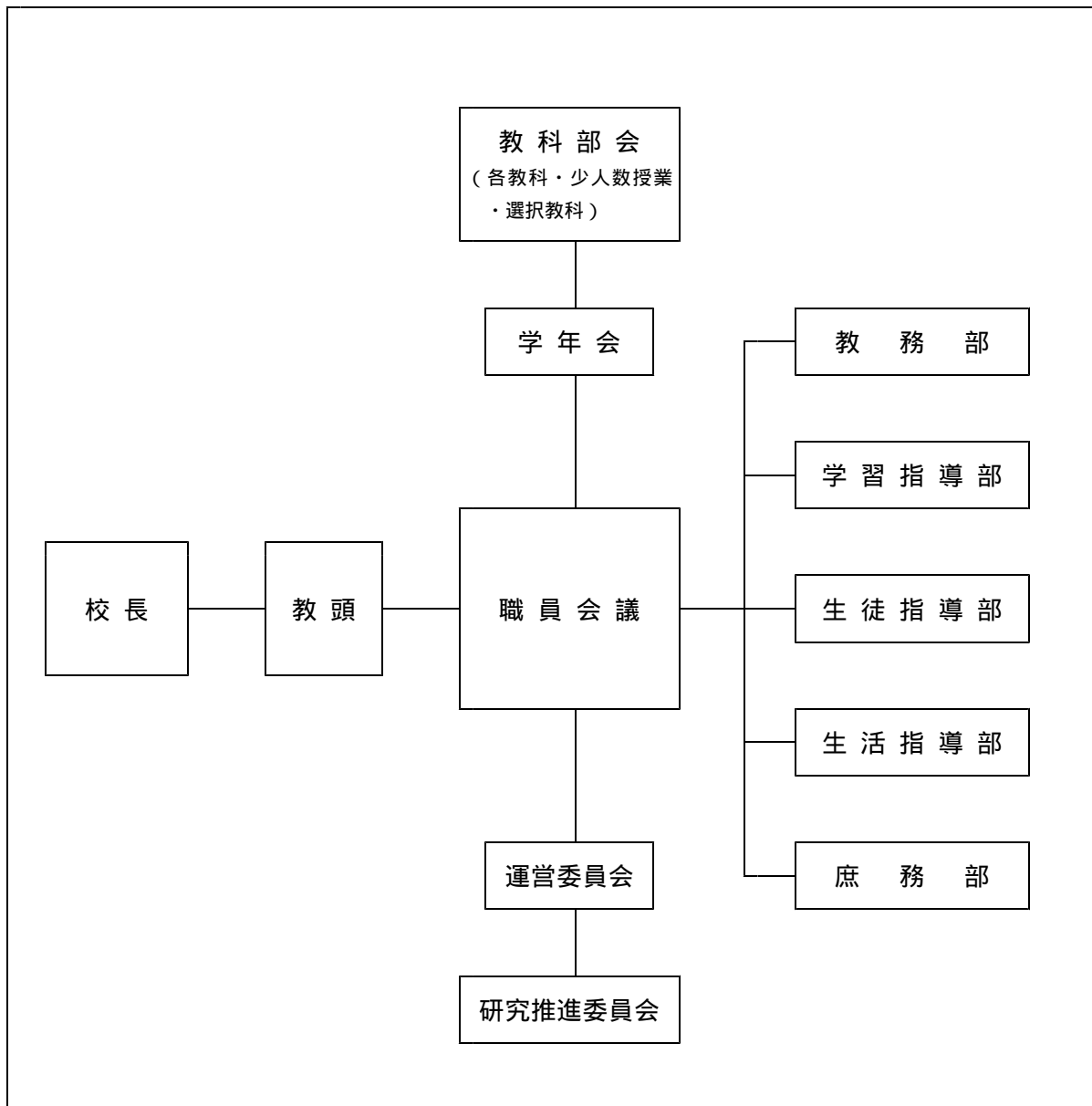
仮説

- 1 共通の学習の構えを作ることにより基礎的・基本的な知識の定着に効果がある。
- 2 学び方を学ぶことが主体的な学習と生き方につながる。
- 3 評価の工夫と指導法の改善が学力を向上させる。

研究内容・方法

- ・ 評価規準や個人内評価を効果的に活用しながら、学び方を学ぶ学習過程の充実を図る。
- ・ 各教科において生徒が主体的に取り組める指導方法の研究と教材開発を行うとともに県内の教員を対象に公開授業をし、研究を深める。
- ・ アンケートや学力調査などをもとに、生徒や教育環境についての実態把握を行い、保護者や校区のフロンティア推進校（飯田小学校・飯田高校）との連携の充実を図る。

(3) 研究推進体制



・平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・ 少人数習熟度別クラス編成について共通理解を持ち、効果的な実施方法について一定の成果があった。
- ・ 学び方を学ぶことが主体的な学習と生き方につながるものと考え、コの字型座席の授業の取り組みを図ったことにより、一層の成果があった。
- ・ アンケート調査の結果から昨年度と比較して家庭学習では、一人あたりの学習時間の伸びがあった。
- ・ 全体の2/3以上の生徒が、少人数授業学習（習熟度別学習）が「よく分かる」「理解しやすい」と答え、意欲的に学習に取り組むようになった。
- ・ 基本的生活習慣について教職員が共通理解を図り、取り組むことができた。

2. 今後の課題

- ・更なる学び方を学ぶ学習過程を展開する方法。
- ・確かな学力を計る具体的手だての検討。
- ・基礎的な学力を計るためのテスト作成。
- ・評価の工夫と指導法の改善を図りながら、教科での情報交換や研究時間の確保。

学力把握のための学校としての取組

- ・学校教育全般にわたる評価を実施し、教育課程変更に生かす。(4月)
- ・学習自己評価表を作成し、実施することにより、学習内容の理解・学習意欲を高める。(随時実施)
- ・アンケート調査を実施し、保護者や自己の学習意欲を高める。(6月と2月に実施)
- ・定期的な学力調査の実施(年2回実施)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・中間発表会：研究授業と講話(確かなる学力をつけるために)
講師 埼玉大学教育学部助教授庄司氏 (平成15年11月19日)
- ・リーフレットの発行 (平成16年3月1日予定)
- ・HPの更新 (<http://www.ishikawa-c.ed.jp~midosj/>)
- ・次年度公開授業の実施(平成16年11月下旬予定)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	・14年度からの新規校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 ・10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	・少人数指導 その他	・T・Tによる指導		
【研究教科】	国語 ・外国語 保健体育	社会 音楽 その他	・数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		・有	無	